

人のために開かれたものとなる。天理教の災害救援ひのきしん隊の活動は、被災地域の住民たちに広く認知されている。東日本大震災後に始まった臨床宗教師の活動や、諸宗教団体による復興支援は、諸宗教が協調し合う場となっている。それは同時に、信仰間対話の場であり、「より深い学び」の場となっている。

国際会議とワークショップを終えて

オーストラリアは多くの難民や移民を受け入れている国である。アジアが多文化共生の地域であることを踏まえて考えるとき、他者の信仰に対して優劣を付けることなく積極的に学ぶことは、大きな意味をもっている。自ら進んで他者からの学びを言語化し、自らの信仰を掘り下げる比較神学は、天理教学の本来的な役割とも通底していると感じた。

2019年度第1回伝道研究会（8月7日）

アンゴラ・世界救世教における体験談の諸相

ーアフリカに進出した新宗教の事例としてー

ハーバード大学大学院宗教学科博士課程

三浦尚仁

2019年8月7日に行われた伝道研究会で、私はアンゴラにおける世界救世教の活動について発表した。アンゴラ共和国における世界救世教いづのめ教団の活動をアフリカに進出した新宗教の一例として取り上げ、主に体験談の諸相について検討する内容であった。

世界救世教（以下、救世教）は大本の信徒だった岡田茂吉（1882～1955）が1935（昭和10）年に創立。浄霊・自然農法・芸術を活動の三本の柱とし、本部所在地は静岡県熱海市。救世教は1955（昭和30）年にブラジルで布教を開始、1991（平成3）年から同じポルトガル語圏のアンゴラにおいて活動を展開した。

教団の統計によると、アンゴラでの信徒数は2010年までに約60,000人に達し、現在アフリカ大陸のうち26カ国における合計信者数は約80,000人。その大多数はアンゴラに集中し、続いてモザンビークに約6,000人、コンゴ民主共和国に約3,500人、サントメ・プリンシペ民主共和国に約1,500人、南アフリカに約500人という順である。公称の信徒数は誇張され、実際にその宗教だけを信じている「信者」という形態はごく限られているとしても、新宗教が外国人の一部に受け入れられつつある傾向があることは確かである。

2016年8月から2017年6月までアンゴラで行なったフィールドワークを軸に議論が展開した。私の研究は、現在はまだ研究の初期段階ではあるが、救世教がアンゴラで信徒を獲得していく実態を、異文化布教並びに海外における日本宗教・文化の

発展というテーマで、これから研究を続ける予定である。

ブラジルに進出した多くの新宗教の中でも救世教、生長の家、PL教団、創価学会、崇教真光等は日系のエスニック・グループを超えて非日系人の間に広く浸透していった（ブラジルにおいて救世教の信徒数は2001年の段階で約310,000人とされ、そのうち97%は非日系人である）。先行研究が示す通り、アンゴラにおいても救世教信徒の非日系人の割合は非常に高い（99%以上）。日本から直接布教を始めるケースと異なり、同じポルトガル語圏のブラジルを通して展開していった布教の流れが重要と思われる。なお、救世教のアンゴラ名はIgreja Messiânica Mundial de Angolaで、メシアニカ（Messiânica）と呼称される（ブラジル同様）。

また、信仰の体験談の構成により、時間的（入信以前・入信以後）境界と空間的（教団外・教団内）境界がどのように構築され、それがいかに人々を宗教的共同体に引き寄せる効果があるのかについて議論を行った。体験談の発表を通して、信者は自らの信仰の原点を思い出し、教団布教のナラティブの文脈の一部として自身の信仰体験を捉えるよう促されていく。抽象的・外来的ともとれる様々な宗教的概念を、信徒の間で具体化・ローカライズする重要なメカニズムの一つとして体験談は機能する。体験談の実践は外国からの宗教運動（すなわちアンゴラにおける日本の新宗教）に参加する人々が言語と文化の違いを越境する一つの枠組みとなっていると思われる。

天理大学おやさと研究所
2019年度公開教学講座

信仰に生きる 『逸話篇』に学ぶ（5）

場所：天理教道友社6階ホール

時間：午前10時～11時30分

事前予約不要・来聴無料

第5回 10月25日（金） 島田勝巳

71話「あの雨の中を」

第6回 11月25日（月） 堀内みどり

73話「大護摩」

グローバル天理

第20巻 第10号（通巻238号）

2019年（令和元年）10月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 永尾教昭

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan